



第1回 キックオフ Report

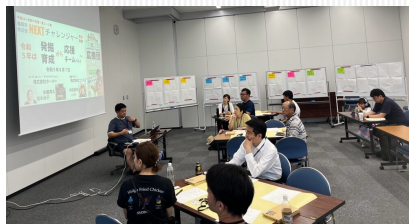
2023.08.06(日) 14:00~17:00 福岡市役所15F研修室B

参加者／8名	
商店街関係者	6名
オブザーバー	2名
他	
アドバイザー	1名
事業実施者	2名
市職員	3名

今回のテーマ

応援団をつくってみよう！

平成30年度にスタートした福岡市商店街NEXTチャレンジャー事業。令和5年度は、発掘育成から、応援チームづくりへと実践的なプログラムに装いを変え、8月6日にキックオフを迎えました。



コーディネーターの木藤亮太さん
(株)ホーホッ 代表取締役)より、これまでに生まれたものや、今年度の事業について、油津商店街の事例を交えながら紹介。その後、参加者のひとり一人の自己紹介で近況を伺いました。

プログラム

- ①オープニング
木藤さんより
商店街NEXTチャレンジャー事業について
今年度の事業について
参加者自己紹介
- ②商店街にあったらいい応援とは？
- ③応援団を作ってみよう！
木藤さんより
今日、見えてきたもの
- ④クロージング

商店街にあったらいい応援って？

商店街を応援するってどういうことなのか？商店街にあったらいい応援とは？

10個の視点 1不動産、2人材、3世代、4商売(売上)、5集客、6行政との関わり、7組織のあり方、8空間デザイン、9情報発信、10ブランディングを説明後、3つのグループで模造紙や付箋に



書きながら対話。途中でグループをチェンジして更に話を深めました。そこで出てきたキーワードを付箋に書き出し、10個の視点に分類して、発表しました。

福岡大学 飛田准教授 | 人材や組織のあり方に集中したのは、商店街組織も企業経営や行政組織と同じで、どう関係性を構築していくかがネック。本筋の商売で儲からないという話よりも、人との関係性構築に悩みがある。そこにどう寄り合いを作っていくか。例えば、箱崎がやっている極めて昭和的な飲み会、子どもをターゲットにして人を駆り出す年1回の祭り、山笠などもそう。吸引力のあるものが、だんだんなくなっていく中で、なにで吸引するのかを考える必要がある。



商店街を応援するって押し活！？

なぜ商店街を応援するのか？応援団として、大切にしたいこと、あり方などを話した後に、参加者に質問しました。

<商店街の中の人に | 応援団はありますか？>

応援団という形ではないが、なにかやろうとしたときに、既にやっている人を誘って飲みに行く。NEXTチャレンジャーでパツと相談に乗れるつながりができた。

<商店街の外の人に | 応援する理由ってなんですか？>

地域への恩返し。仕事の延長線上。ただただ面白い。商店街が地域らしさの一端を担っている。私が好きなまちをみんなにも好きになってくれたら嬉しい。まさに押し活！

求められるもの？勝手にやるものか？

油津商店街の事例では、木藤さんが現れたことで、油津の人たちは、直接は商店街に対して何もできないが、木藤さんを通してアイデアを伝え、応援するという接点があった。応援団が木藤さんを応援するのは勝手にやることで、応援された人は、使命、仕事、プロジェクトなどでまちや商店街に関わる。もしかしたら、こういう構図が応援するしくみになるのでは？次回以降、考えていきたい。この輪を増やしていきましょう。最後は記念撮影をして、閉会しました。

